

MEMO

平成22年度

新潟大学歯学部同窓会・総会
学術講演会

**「新潟大学歯学部
歯学科の教育改革とその成果」**

—21世紀を生き抜く歯科医師の育成を目指して—

講師：

新潟大学歯学部口腔生命福祉学科

小野和宏教授

日時：平成22年4月24日(土)

午後5時00分から6時30分まで

場所：新潟大学歯学部第一講義室（2階）

- ・生涯研修カードをご持参ください
- ・会費は無料です

主催：新潟大学歯学部同窓会

● 講演要旨 ●

「新潟大学歯学部歯学科の教育改革とその成果」

－21世紀を生き抜く歯科医師の育成を目指して－

新潟大学歯学部口腔生命福祉学科

小野和宏

医学・歯学教育の分野では、少子・高齢社会の進展による疾病構造および社会構造の変化、患者や学生のニーズの高度化・多様化、生命科学の急速な発展、教育内容の国際標準化、さらには臨床研修制度の必修化などにもない、学部教育の内容を整理して、臨床研修や生涯学習との円滑な接続を考慮することの必要性が指摘され、その教育目的、内容、方法などについて21世紀を見通した変革を行うことが求められてきました。この一連の流れの中、2001年3月に医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議から「21世紀における医学・歯学教育の改善方策について－学部教育の再構築のために－」が報告され、今後の課題と目指すべき目標が明示されました。この中で、主要な課題として挙げられているのが、過密な記憶偏重教育の見直しと、統合的かつ効果的な教育の実現です。このため、医学・歯学教育の分野では課題探求・問題解決能力の育成が望まれ、この能力が日進月歩で進歩する生命科学のもとで、日々、多様な患者・疾患に対応していくことが求められる医療人としては最低必要条件ともいえる不可欠な資質であると考えられています。

新潟大学歯学部では、このような医学・歯学教育に対する提言がなされる以前より、教員定員削減、3年次編入の開始、入学時学生の学力低下、学生臨床教育用患者の不足、長期欠席者や休学者の増大などの理由から、大学学習法をはじめとした初年次教育の展開、ならびに専門教育の精選化、統合化によるカリキュラム改革の必要性があると判断し、1998年度より教育課程の抜本的な再編に着手し、2000年度より新教育課程を開始しました。2010年3月までに5回の卒業生を送り出し、新課程は着実に実践されていますが、その可否を判断するためには、学習者がどの程度、教育目標を実現できたのか的確に把握する必要があります。

本講演では、はじめに新課程の概要を述べ、その後、この課程で学んだ卒業生の目標達成度に関する評価結果をお示しし、皆さんとともに、新潟大学歯学部歯学科の教育改革を問い直してみたいと思います。また、今後の歯学教育の向かうべき方向性について貴重なご意見をいただければと思います。

小野和宏 教授 略歴

学 歴

- 1986年 3月 新潟大学歯学部歯学科卒業
- 1990年 3月 新潟大学大学院歯学研究科歯学臨床系専攻博士課程修了

職 歴

- 1990年 4月 新潟大学助手歯学部採用（口腔外科学第二講座）
- 1999年 2月 新潟大学講師歯学部昇任
- 2000年 5月 新潟大学助教授歯学部昇任
- 2001年 4月 新潟大学大学院医歯学総合研究科助教授承認（顎顔面口腔外科学分野）
- 2003年 8月～2004年 1月 文部科学省短期在外研究員として
スウェーデン王国マルメ大学歯学部へ留学
- 2004年 4月 新潟大学助教授教育研究院医歯学系に配置換
- 2005年 4月 新潟大学教授教育研究院医歯学系昇任
（口腔生命福祉学科口腔衛生支援学講座）
新潟大学歯学部学生支援委員長就任
- 2007年 4月 新潟大学歯学部学務委員長就任

免許および資格

- 1986年 6月 歯科医籍登録
- 1998年10月 日本口腔外科学会専門医登録
- 2004年10月 日本口腔外科学会指導医登録

所属学会

新潟歯学会、日本歯科医学教育学会、歯科基礎医学会、日本人類遺伝学会、日本口腔科学会、日本口蓋裂学会、日本顎関節学会、日本顎変形症学会、日本歯科保存学会、日本口腔外科学会、日本小児口腔外科学会、国際口腔顎顔面外科学会、アジア口腔顎顔面外科学会

主な研究テーマ

- 口唇口蓋裂の病態と治療に関する研究
- 歯学教育へのPBLテュートリアル導入に関する研究